

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) と カオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の 成立をめぐる

高津 茂

はじめに

2011年7月17日ヴェトナム政府宗教委員会は、メコン・デルタのティエン・ザン省ミイ・トオ市チュン・アン村にて、カオダイ教を国の公認宗教として認定する式典を開催し、同式典に同委員会グエン・タイン・スアン副委員長、各省・都市の人民委員会と宗教委員会の代表者らのほか、カオダイ教の聖職者などが出席したと17日付グウオイ・ラオドン紙 (Báo Người Lao Động) (電子版) が報じた。

筆者は、「解放後のカオダイ教」⁽¹⁾で解放後の宗教政策と解放後のカオダイ教への施策について論じ、2004年段階において「公認の認可を受けた宗派」と「本々愛国勢力であった宗派」と「公認未定の宗派」の3つに分けて整理した。上述のニュースはそのすべてが一つのカオダイ教という宗教として公認されたことを意味する。

それは、1995年に始めたカオダイ教の再組織化に成功し、愛国諸派によるカオダイ教管掌評議会の実効的運用が確立したこと意味していると思われる。

表1で見ると、カオダイ教全体の求道申請書 (số cầu đạo) を有した正式信徒の数では、カオダイ教はヴェトナムで4番目に大きな宗教組織であり、南部にその信仰圏の中心を有する。ちなみに表2⁽²⁾はヴェトナム南部におけるカオダイ教の求道申請書を有する信徒数を職色 (chức sắc)、職事 (chức việc)、道友 (đạo hữu)、礼拝施設 (cơ sở thờ tự) に分けて記したもので

ある。また表3は一般的な信徒数等を示したデータである。本稿ではカオダイ・タイニン聖座 (Tòa Thánh Tây Ninh Cao Đài) に次いで多きな宗派であり、カオダイ・ミン・チョン・ダオ聖会 (Hội Thánh Minh Chơn Đạo Cao Đài) と共に一貫して愛国諸派の伝統を守った愛国派最大の宗派であるカオダイ・バン・チン・ダオ聖会 (Hội Thánh Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる1933~1934年前後の過程に焦点を当てて考察する。バン・チン・ダオは整道委員会の意味である。元々はタイニン聖座にいたグウエン・ゴック・トゥオン⁽³⁾が、カオダイの教えを整えねばならないと考え、新たな宗派を創設したのはいかなる理由があったのかを念頭に『カオダイ教の歴史 巻2 伝道 開明から支派へ分かれるまで (1926-1938)』⁽⁴⁾を中心資料としつつ考察するものとする。

1. 1934年前後のインドシナの状況とカオダイ教

『カオダイ教の初歩的考察』⁽⁵⁾によると、1930年前後のインドシナの政治情勢は沸騰していたといつてよいように思われる。特にナム・キには多くの会派や党が出現し、フランス語の新聞やヴェトナム語の新聞は人々の認識を高めるのに貢献したようである。すなわち、工場やゴム農園ではデモ行進やストライキが多く、地多にわたって勃発した。特にサイゴンでは、政治的な勢力と多くの知識人が相互に集合し、多くの組織や団体にカオダイの教えが影響を与える位置を占めていた。

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐって

大体、政治思想には二つの流れがあった。

一つの流れは、仏-越提携の主張、あるいは民主資本主義勢力によるものであり、植民地政権に民主的改革を要求するものである。すなわち、親日か親中華共和 (孫中山により樹立された政権)、あるいはクウオン・デェ (Cường Đê) に連結するか孫逸先 (Tôn Dật Tiên) と連結するかである。この勢力を代表するのはブイ・クワン・チュウ (Bùi Quang Chiêu) の立憲党 (Đảng Lập Hiến) (1925) や、ファン・ボイ・チャウ (Phan Bội Châu) グループの復越会 (Hội Phục Việt) (1925) であった。

二つ目の流れは、ロシアの十月革命の影響を受けたヴェトナム青年革命同志会 (Việt Nam Thanh Niên Cách Mạng Đồng Chí Hội) 組織、赤い議会 (Công Hội Đỏ)、それから共産勢力に従った三つの革命党が合一してヴェトナム共産党 (1930) となった。1930年、ゲティン・ソビエト (Xô Viết Nghệ Tĩnh) 運動が勃発し、きわめて強い革命的精神が全国に波及していた。ナム・キにおいては、ナム・キ議会はニャ・ベェ (Nhà Bè) 労働者にゲティン・ソビエト擁護を呼びかけた。1933年5月に開かれたサイゴン刑事大法廷は、各共産党員と多くの愛国者に判決を下した。革命精神は、自由・民主を高く要求し、その結果植民地政権に、白色テロの弾圧を増強したり多少の譲歩をしたりすることを強いた。共産党員の一人グウエン・ヴァン・タオ (Nguyễn Văn Tạo) はサイゴン市議會議員に選出された。

この政治状況がカオダイ教に極めて強く作用するという事はなかったが、カオダイ教の指導者はまさに二つの勢力に分かれることとなった⁽⁶⁾。

一つは、植民地帝国主義に抗し民族解放革命勢力に従ったハウ・ザン・ミン・チョン・ダオ聖座である。二つは、革命勢力と反革命勢力の間で動き、結局は反革命に組するタイニン聖座である。しかし、タイニン派の中にも民族解放に参加して帝国主義に抗する部分もあり、タイニン派の中にも相互に異なった多くの政治勢力

が互いに影響することを認め合って幾つものグループに分かれてもいた。この発展期の特徴は宗教活動であるよりも政治的活動に偏っていた点である。それは社会的に要請されたことでもあった。

カオダイ・バン・チン・ダオ聖会は、前者の流れを汲む愛国派の宗派の代表的な一つである。

2. カオダイ・バン・チン・ダオ聖会の概要

カオダイ教には3人の教宗 (Giáo Tông) がいた。一人はカオダイ教の創設者であるレエ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung)。もう一人は、ゴ・ヴァン・チュウ (Ngô Văn Chiêu)。そしてグウエン・ゴック・トゥオンである。もっとも、『カオダイ教の初歩的考察』「グウエン・ゴック・トゥオンのベン・チェ派 (Phái Bến Tre của Nguyễn Ngọc Tương)」⁽⁷⁾によれば、「グウエン・ゴック・トゥオンも1926年に教えを開くことを求めて署名した28人の一人であったが、1934年3月にいたってタイニン聖座を辞めて、タイニン聖座と完全に一致せず、カオダイ教の内部を整頓する意義を掲げて、バン・チン・ダオを成立させた。その年の11月レエ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung) が逝去し、ベン・チェ派はグウエン・ゴック・トゥオンを選んで教宗としたが、タイニン派の公認を得ることはできなかった。」とあり、カオダイ・バン・チン・ダオ聖会が独自に教宗としていることが知られる。

このカオダイ・バン・チン・ダオ聖会の概要については、グウエン・タイン・スワン氏の記述が適切であるので些か長い引用する。「1930年代の間に入って形成されたカオダイ・タイニン派に次ぐ第二番目に大きなカオダイの宗派である。具体的には1934年に護法ファム・コン・タック (Phạm Công Tắc) や教宗レエ・ヴァン・チュンの処理に不満なために、グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とレエ・バァ・チャン (Lê Bá Trang) の二人の導師がタイニン聖座を辞めて、ベン・チェに戻り『章程整道 (Chương Trình Chinh Đạo)』を創設し

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐって

た。後にタイニン聖座との修復に努力したが、ならなかった。教宗の資格でグウエン・ゴック・トゥオンはベン・チェに新しい教会を設立して、グウエン・ゴック・トゥオン教宗の擁護権の下に聖会であるいわゆる大道三期普度 (Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ)⁽⁸⁾を称した。この後正式にカオダイ・バン・チン・ダオの名を創称した。成立後、グウエン・ゴック・トゥオン教宗は、死ぬ (1951年) までカオダイ・バン・チン・ダオを指導し、協天台と九重台の職色が集団で師に代わった。⁽⁹⁾ ファン・ビック・ホップ氏は、1931年、タイニン聖座の情勢には多くの混乱があり、尚導師 (Thượng Đầu Sư) の道号を持つグウエン・ゴック・トゥオンは、教えを真正な道に戻し、情勢の安定化に貢献することを希望して、聖座における教えの行いについて世代を廃したことが、グウエン・ゴック・トゥオンがタイニンを去るきっかけとなったことを示唆している。グウエン・ゴック・トゥオンはベン・チェに移動した後、レ・バァ・チャンや他の若干の高級職色と協力してバン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo 整道委員会) を創設した。その目的は最初の純粋な意義に従ってコ・ダオ (Cơ Đạo 機道) を整頓することであり、それは1934年末から1937年の間のことであったと指摘している。⁽¹⁰⁾

1938年1月15日になって、教宗グウエン・ゴック・トゥオンの主催で、聖会は成道礼 (Lễ Thành Đạo) を盛大に挙行し、教えを整える (Chinh Đạo) 任務を終えた。最初の時期は、大道 (Đại Đạo) の135の総聖室中96が、6省中の道友 (đạo hữu) の過半数が、バン・チンに加入した。1938年から1939年の間、トゥオン師は職色を選び中部と北部に普度に派遣した。中部においてはおよそ5000人の信徒と25の聖室を建設し、北部においてはハ・ノイとハイ・フォンに聖室をえた。⁽¹¹⁾

ファン・ビック・ホップ氏が指摘するバン・チンの特別の条項は、

①カオダイの機 (cơ) を手にして正しい命令を実現する。協天台におけるコ・ブット (Cơ bút

機筆)⁽¹²⁾は、絶対に使用してはならない。

②大赦を行うことを認め、苦しみから解放された後はまさに教宗グウエン・ゴック・トゥオンの独立した方法で伝え下したことによって苦行も何もないことが許される。

という点にある。

3. 尚導師 (Thượng Đầu Sư) と玉導師 (Ngọc Đầu Sư) の二位がタイニン聖座を離れる

タム・タイン (Tâm Thành) の『行道三ヶ月産』(Tam cá nguyệt san Hành Đạo), 第7号、1963年8月、11頁によれば、「1933-34年の2年間から1934年3月に至るまで、教えを開いたことは強力に伝えられ順調であった。痛ましい時間の後、導師の事務室と家にあった事務机が占有されたために、玉権 (quyền Ngọc) と尚権 (quyền Thượng) を持つ二人の導師はタイニン聖座において教えを行うことを暫くの間止めざるをえなかった。」とある⁽¹³⁾。希望したように教えを行うことができないので、甲戌年 (1934) 初めに、二位は暫くタイニン聖座を離れた。1934年4月の間、トゥオン・トゥオン・タイン (Thượng Tương Thành) 権導師は、(師が以前数年郡長をしていた) ロン・ハイ地区 (vùng Long Hải) のキ・ヴァン山 (núi Kỳ Vân) に出かけ、隠れて修行するためにバック・ヴァン・ディエン (Bạch Vân Điện 白雲殿)⁽¹⁴⁾を立てた。しかしながら、考えを同じくする各職色は多く、その中でゴック・チャン・タイン (Ngọc Trang Thành) 権導師は、師に従って敢えて教えを「整頓する (chỉnh đốn)」ために戻るようトゥオン・トゥオン・タイン師を説得するために何度もバック・ヴァン・ディエンを訪ねた。

4. 整道 (Cơ Chinh Đạo) (1934) に関する 珠知 (Chau Tri)

(1) 珠知第3号=整道のメッセージ

心安らかに浄を修める心境でもなく、トゥオン・トゥオン・タイン師はサイゴンに戻った。師はビン・ホア静室 (Thánh Thất Bình Hòa)⁽¹⁵⁾

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Trương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chính Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

に至り、また故郷ベン・チェのアン・ホイ静室 (Thánh Thất An Hội)⁽¹⁶⁾にも度々もどって、ゴック・チャン・タイン師と共に、二位は積極的に「整道 (Cơ Chính Đạo)」のための運動をした。「整道」に着手するや、アン・ホイ静室にあってトゥオン・トゥオン・タイン師は、1934年7月24日 (甲戌年6月13日) に珠知第3号⁽¹⁷⁾を出し、以下のように述べた。

「正配師 (Chánh Phối Sư) 権頭師トゥオン・トゥオン・タインは、諸職色・職事、男女の道友の皆様へ申し上げます。

諸賢友

愚生は責務を暫く止めざるを得なかったことを極めて遺憾に思っております。また、教えが厳正に教育されるためには、障害に遇うことにも同意せねばなりません。しばしば私は是非善悪をつける場を避け、修行に事寄せて庵寺に隠れたく思っていました。しかしながら、その願いを立てる前に、大慈父 (Đại Từ Phụ) や李教宗 (Đức Lý Giáo Tông) の教えを繕い行う命令を授けられたので、敢えて責務を廃棄しません。

今、まさに整道の時期がきたり、私は師と李師から付託された責務を施行せねばなりません。それは、教えを整頓する仕事をお手伝いし、教えの生活 (nhon sanh) の教育に気を配ることです。長兄 (Anh Cả) が第21号の命令をお出しになった日から衆生 (Chúng Sanh) に普く告げた1934年2月4日から平和を四散させたので、やむを得ず私は (ザ・ディン) ビン・ホア静室と (ベン・チェ) アン・ホア静室に暫く留まって、師の整道を助けざるを得ませんでした。師の言いつけられた命令がある限り、私はタイ・ニン聖座に戻って、一般の協力に帰することに気を配ることでありましょう。この珠知に続いて、各珠知が更に送られることと思います。どうぞ諸賢友は道友に広く理解していただきますよう、全ての皆様喜んでお伝えください。

アン・ホイ静室 1934年7月24日

(甲戌年6月13日)

トゥオン・トゥオン・タイン」

(2) 珠知第4号＝整道章程

3日後、1934年7月27日になって、権頭師トゥオン・トゥオン・タインとゴック・チャン・タインの二位は、珠知第4号を出し『整道章程 (CHƯƠNG TRÌNH CHÍNH ĐẠO)』を伝えた。原文は以下のごとくであった。

『整道章程』

【教えを守る人について (Về Người Giữ Đạo)】

第1条 職色や道友の中でいずれの方も私たちと協力するつもりで心を同じくし、教えを整備することに気を配らねばなりません。しかし、その前に、まずは五戒の禁 (Ngũ Giới Cấm) を実行せねばならないし、新律 (Tân Luật) と法正伝 (Pháp Chánh Truyền) (注解ではなく) を十分に保ち、職色は四大条規 (Tứ Đại Điều Quy) を更に守らねばならない行政上の責務を持っていることを言わざるを得ません。

第2条 各位が互いに整道に気を配るに当たって、周囲の人々が自分も庇護を信ずることができるよう、多くも少なくもなく善良ですっきりきれいにした中で手本となるように、日々道徳と品行を鍛錬しなければなりません。すなわち、われわれはお互いに一つになって善良な手本となり、明るく睦みあい力を合わせて相和することを喜びとするよう、いたるところで際立って模範となることを意味しています。

第3条 この善良なる手本となりたいのなら、まず第一に必要なことは慈悲 (Từ Bi) ・博愛 (Bác Ái) 主義を実行せねばなりません。この心のためには、哀れなまで怒りや恨み、嫉妬や嫌悪の気持ちを持つてはならないということを守らねばなりません。傷ましく思う気持ちを完全にしなさい。そしてお互いに対処することとしましょう。こうしてお互いに大声で口論をしたり煩くしないようお互いに禁じあわねばなりません。骨肉の情のようにお互いに見守って助け合わねばなりません。

【静室について (Về Thánh Thất)】

第4条 各静室の場では同じように読経を行

い、各礼拝を行わねばなりません。朔望 (旧暦の1日と15日) の禮 (lễ Sóc vọng) にあつては、職色は教えを講じたり、各篇を解説することとします。広い場所のある大きな静室にあつては、毎月10日には職色は特に教えを行う責務について職事を論じ教えることとします。

【バン・チン・ダオ (整道委員会) について
(Về Ban Chinh Đạo)】

第5条 施行する前に各々の教えのことを二位の権頭師と打ち合わせるために整道委員会を置くこととします。各教えの家 (họ Đạo) のこの委員会は、職色の人たちや道徳や知識の豊かな道友をお互いに力を合わせて選びます。特に誠実な教えの姿にするためには、賢を集め徳を集め品行の様子を十分に垣間見せ、修行を整備することに気を配ることです。

第6条 両派の職色と道友は、この章程を見て喜んで従い、礼拝の時には天机 (Thiên Bàn) の前に進み出て、師 (Thầy) の意となるように願いなさい。そしてそれに従って実行するよう心がけなさい。各教えの家を訪れる私たちの派の人間がいる限り、自分の決定をよく理解し明確にするために、より一層尋ねることが出来ます。今日、私たちは暫く (ザ・ディン) ペン・ホア静室と (ベン・チェ) アン・ホイ静室にあつて誠を為すために師を助けて教えを整える責務を心がけます。師が決定する時まで、タイ・ニン聖座については、真正な人たちと心をともして力を合わせていくことです。私たちに送られた詩は、ザ・ディンあるいはベン・チェへ戻るためであれば、そのときは私たちはそうすることもできましょう。

ペン・ホア静室、 1934年7月27日
(甲戌年6月16日)

トゥオン・トゥオン・タイン
ゴック・チャン・タイン

(3) 珠知第5号=整道委員会の成立大会

その後1934年9月26日に珠知第5号を受け取り、各冠婚葬祭の中でお互いに助け合うために、行天委員会 (Ban Hành Thiện) をそれぞれ

の教えの家に立てることを二位の権頭師が規定した。このほかに珠知第5号は次のように集まることを求めることが記されていた。

「二位の権頭師の仕事を手を助けることを心がけるために整道委員会を選び、「整道」について有益な各条を議論するために、1934年11月20日 (旧暦10月14日) 早朝9時に (ベン・チェの) アン・ホイ静室に集まる代表 (南部ヴェトナムは教えの家ごとに代表) を選び、選ばれた全ての諸位を、私たちはお招きします。」

1934年11月20日 (甲戌年10月14日)、(ベン・チェの) アン・ホイ静室における大会に集まった中には、当時教え全体で115の教えの家があった中で、85の教えの家の参加を含む18省中の全ての教えの代表が加わっていた。整道問題を明確に説明することができるために、大会に集まった証書の原文を書き写していただきたいのであります。

「トゥオン氏とゴック氏の正配師権頭師が正副主座 (Chánh, Phó chủ tọa) となり、職色・職事と男女道友およそ1500人は全て皆で傾聴した。トゥオン・トゥオン・タイン師が開会の挨拶文を読んだ (癸卯年11月『行道集産 (Tập San Hành Đạo)』第8号 (Số 8), pp.13-17中の原文を参照)。その後、各派の各教えの家の代表員は『整道章程』の公認を同じくし、大会は整道委員会を選出した。委員は以下の18省21名である。(省名、委員名、職業、地名)

- 1) バック・リュウ (Bạc Liêu); ファム・ヴァン・ソオ (Phạm Văn Sở) 氏、大地主 (nhiệp chủ), トイ・ビン (Thới Bình)
- 2) バ・リア (Bà Rịa); ゴオ・ヴァン・クウエン (Ngô Văn Quyền) 氏、正治事 (Chánh Trị Sự), フウオク・トオ (Phước Thọ)
- 3) ベン・チェ; ①レエ・ハオ・ホック (Lê Hào Học) 氏、教友、ダイ・ディエン (Đại Điền) ②レエ・タム・ティン (Lê Tam Tinh) 氏、通訳 (Thông Sự), タイン・ガアイ (Thạnh Ngãi)
- 4) ビエン・ホア (Biên Hòa); マイ・ヴァン・タイン (Mai Văn Thanh) 氏、正会長 (Chánh

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

- hội trưởng), アン・タイン (An Thành)
- 5) カン・トオ (Cần Thơ); チャン・ヴァン・ニャン (Trần Văn Nhân) 氏、大地主、フォン・タイン (Phong Thanh)
 - 6) チャウ・ドック (Châu Đốc); ファム・ズイ・カイ (Phạm Duy Cai) 氏、教員 (giáo viên), フウ・ラム (Phú Lâm)
 - 7) チョ・ロン (Chợ Lớn); ①グウエン・ヴァン・チャット (Nguyễn Văn Chất) 氏、旧会同 (cựu Hội Đồng), タン・キム (Tân Kim)
②グウエン・ズイ・トゥアン (Nguyễn Duy Thuần) 氏、手本頭 (Chánh thủ bản), タン・ラン (Tân Lân)
 - 8) ザ・デイン; ①ゴック・キン・タイン (Ngọc Kinh Thanh) 氏、教師 (Giáo Sư), アン・ホイ
②トゥオン・ボオ・タイン (Thượng Bộ Thanh) 氏、教友、トゥアン・キユウ (Thuận Kiều)
 - 9) ゴオ・コン (Gò Công); グウエン・トゥアン・マイ (Nguyễn Tuấn May) 氏、書記長 (Chánh từ hàn), タン・ニエン・チュン (Tân Niên Trung)
 - 10) ロン・スウエン (Long Xuyên); レエ・ヴァン・トオ (Lê Văn Thơ) 氏、大地主、タン・タイン (Tân Thạnh)
 - 11) ミイ・トオ (Mỹ Tho); ファム・フウ・ハイ (Phạm Hữu Hạnh) 氏、拝み頭 (Chánh bái), ザオ・ホア (Giao Hòa)
 - 12) ラック・ザア (Rạch Giá); フウイン・タン・ドゥック (Huỳnh Tấn Đức) 氏、大地主、ホア・ルウ (Hòa Lộ)
 - 13) サ・デック (Sa Đéc); レエ・ミン・フォン (Lê Minh Phong) 氏、学院管理長 (Chánh quản lý Học viên), キム・ブウ (Kim Bưu)
 - 14) ソク・チャン (Sóc Trăng); レエ・ヴァン・イエン (Lê Văn Yên) 氏、正治事、アン・タイン・ニイ (An Thạnh Nhi)
 - 15) タン・アン (Tân An); グウエン・ヴァン・ルウ (Nguyễn Văn Lưu) 氏、静室主 (chủ Thánh Thất), ビン・クウオイ (Bình Quới)
 - 16) タイ・ニン (Tây Ninh); ファム・ヴァン・

- ゴオ (Phạm Văn Ngọ) 氏、士載 (Sĩ Tải), タイ・ビン聖地 (Thái Bình Thánh Địa)
- 17) チャ・ビン (Trà Vinh); ファム・チュン・ドオ (Phạm Trung Đô) 氏、教えの郡頭 (đầu quân Đạo), ダ・ロック (Đa Lộc)
 - 18) ヴィン・ロン (Vĩnh Long); グウエン・ヴァン・ルウ (Nguyễn Văn Lưu) 氏、大地主、ソン・デイン (Sơn Định)]

上に挙げた諸位は、「整道」の事項を行うために二位の権の尚 (Thượng) 並びに玉 (Ngọc) 頭師と一緒に集まることとなる。⁽¹⁸⁾

1934年11月20日、この日の午後初めに一通の訃報が届けられた。権教宗 (Quyền Giáo Tông) トゥオン・チュン・ニユット (Thượng Trung Nhựt) がタイ・ニンで天に帰った。(師は1934年11月19日午後3時に亡くなられた。)

主座がおっしゃられるには、教えに入り修行しようとする者は誰でも、開道 (Khai Đạo) 当初の時期における権教宗のお骨折りに感謝せねばならない。それゆえ各教えの家を論じて、在所の静室で大礼 (Đại Lễ) を挙行し、師の求超 (cầu siêu) を願い、それぞれの人が任意に速やかに長い期間師の喪に服さねばならない。

主座は、このとき直ちに権教宗の葬儀に参加するためにタイ・ニン聖座に戻りたかったが、誰も細かいことを言わずに、主座はちょうど午後5時に閉幕にした。⁽¹⁹⁾

二位の権頭師トゥオン・トゥオン・タインとゴック・チャン・タインは、大会を終息して権教宗の葬儀に参加するべくタイ・ニンに帰る道を直ちにたどるために、あらゆることを畳む仕度をした。

5. 聖会の成立

(1) 珠知第7号

1934年12月5日 (甲戌年10月29日) 権頭師トゥオン・トゥオン・タインは珠知第7号を出された。その一段を抄録すると、

「諸賢友

今日、権教宗を儀式通り埋葬したことで、全て

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

返還された。各教えの家や各静室における師(教宗)への感謝や義に応えるための求超の葬儀も滞りなく終わった。教えの中の多数は師(教宗)の運命が安らかであったとおもっていた。教えの和合はおそらくすぐに戻る事ができたであろうと想ったが、惜しいことだ。聖座での不和を養うことは想ってもいなかった。

このような原因の為に権玉頭師と私も一時的に(ザ・ディンの)ビン・ホア静室と(ベン・チェの)アン・ホイ静室に居らねばならず、また教えを整頓することに気を配らざるを得なかった。

アン・ホイ静室、 1934年12月5日
(甲戌年10月29日)
トゥオン・トゥオン・タイン」

(2) 珠知第8号=1934年12月バン・チン・ダオの職色に職権を授与する

1934年12月15日、珠知第8号は(ベン・チェの)アン・ホイ静室での大会に集まることを請うた。すなわち、「1934年12月24日(甲戌年11月18日)、大会に集まったのは、二位の権尚頭師と権玉頭師、保法(Bảo Pháp)グウエン・チュン・ハウ(Nguyễn Trung Hậu)、保文法君(Bảo Văn Pháp Quân)カオ・クウイン・ズィウ(Cao Quỳnh Diêu)、七位の教師(Giáo Sư)、二十七位の教友と三人の礼生(Lễ Sinh)であった。⁽²⁰⁾

会議は次のような内容のためであった。

バン・チン・ダオは聖座に関して未だ力を合わせられる状態ではない。それゆえ、律令に従って教えを行う十分な権能を備えた新たな聖会(Hội Thánh)の形態を立てる必要がある。頭師と力を合わせ、教えの礼に従って正しく新たに行政を行うために掌法(Chưởng Pháp)⁽²¹⁾を置く必要がある。

会議は権玉頭師ゴック・チャン・タイン師を公に選んで、トゥオン・チュオン・ファップ(Thượng Chưởng Pháp 尚掌法)と為すこととした。続いて会は三位の暫定権正配師(Tạm Quyền Chánh Phối Sư)を選出し、九院(Cửu Viện)⁽²²⁾も成立させる

こととした。会は女性派(Nữ Phái)も一緒に選ぶことができるとの一人の主張を可とした。⁽²³⁾

1936年4月12日印行の『整道珠知(Châu Tri Chinh Đạo)』によると、選出された三位の教師の品にあった権正配師は、ゴック・キン・タイン(Ngọc Kinh Thanh) [俗名;グウエン・ヴァン・キン(Nguyễn Văn Kinh)], トゥオン・ライ・タイン(Thượng Lai Thanh) 俗名;グウエン・ヴァン・ライ(Nguyễn Văn Lai)], タイ・ミン・タイン(Thái Minh Thanh), [俗名;グウエン・クウアン・ミン(Nguyễn Quang Minh)]であった。

女性派の頭としては、会議は女性教師(Nữ Giáo Sư)フウオン・タム Hương Tâm [俗名;モオ・カイ(Mô Cây)]を代表の長として選出した。⁽²⁴⁾

会議で将来のために前もって決まった意見は、聖会が十分な仕事を行うための人事を備えるために、教師、教友、礼生たちをより一層職色に選ぼうということであった。

この1934年12月24日の大会での決定には、万霊会(Hội Vạn Linh)を仕度する事も以下のように含まれていた。

「教えの正しい根源を把握するために掌法や頭師の中から一人を選ぶために、1935年2月11日~14日(乙亥年正月8日~11日)に、(ベン・チェの)アン・ホイ静室での万霊会にお集まりいただくことを決定しました。⁽²⁵⁾

特に、この時点でトゥオン・トゥオン・タイン師が正位の尚頭師の品の職権を授与されたことを明確に述べた文書は未だ認められていなかった。各珠知を観察すると、多分1934年12月24日から確定し、トゥオン・トゥオン・タイン師は正式にバン・チン・ダオ尚頭師となった。

6. バン・チン・ダオ万霊会が教宗を選ぶ(1935年2月)

1934年12月29日、ビン・ホア静室にあってトゥオン・トゥオン・タイン師は、珠知第9号を出し、(ベン・チェの)アン・ホア静室で乙亥年正月8日~11日の万霊会に、次の目的でお集まりいただくよう繰り返しお言葉を繰り返され

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

た。その目的とは、

「①教えの根源を把握するために、掌法あるいは頭師の中から一人を選ぶため。

②そしてタイ・ニン聖座に関する仕事を決定するため。」(『整道珠知』22頁)である。

1935年2月11日(乙亥年正月8日8時に、バン・チン・ダオ万霊会は開幕した。委員会組織に従って、当初の日は約1000人の派員 (phái viên) (それぞれの派員は100人の信友 (tín hữu) を代表していた。)が集まった。その後日を追って派員数は増加し、20省から静室と88箇所の教えの家から総計3522人が参加した。

開幕の挨拶文の中で、レエ・バァ・チャン師は、この期の万霊会の意義を解釈し、理由はタイ・ニン聖座に代わってアン・ホイに集まらねばならないことにある。加えて師は重要な点に言及した。

「(「教えの根源を把握する」人とは、すなわち教宗の品を選ぶための投票をする)万霊会の今日の長を投票することである。私は諸賢友が教えの心を悉く受け止めて考慮されることを、お願いしたい。上恩 (On Trên) が普くし、道徳的な人が選ばれることを祈願します。」

(『整道珠知』30頁)

尚掌法レエ・バァ・チャンと尚頭師の二位は、選挙で争わないことを表明したにもかかわらず、大会は依然としてこの二位に投票することを決定した。

投票は、1935年2月11日(乙亥年正月8日)午後2時から始まり、同月13日まで行われた。1935年2月13日(正月11日)午前8時、(男性20人、女性16人の)36位を含む点検に責任を負った委員会が、総計5353票を数えた。

レエ・バァ・チャン師が27票を得、

トゥオン・トゥオン・タイン師が5326票を得た。1935年2月13日午後、点検委員会は正式にトゥオン・トゥオン・タイン師に当選を伝えた。その後、師は答辞を出した。

「教えの根源を把握することの責務は極めて大きく、天禄の扶持 (Thiện lực phò trì) が恐らく

あるであろうことをもし知らなければ、誰も敢えて受領することはしないであろう。諸賢友は、私を信頼する心をお持ちいただいたために私にこの重い任務を負託し、これから後私も責務に十分に気を配って、諸賢友に喜んで私を助けていただくようお願いいたします。」

この期の万霊会にはもう一つの事がありました。それはタイ・ニン聖座の教えを行う事についての信友の意見を聴取する事です。結果は、5353票中5325票が同意に帰するとのことでした。

会議は、同じく三位を信認しました。すなわち尚掌法レエ・バァ・チャン、尚生 (Thượng Sanh) カオ・ホアイ・サン (Cao Hoài Sang) と保法グウエン・チュン・ハウ (Nguyễn Trung Hậu) (尚生と保法の二位はその日は出席していなかった。)は聖座にあって、またバン・チン・ダオがこれまでと同じように教えを行う事ができるようにするためにタイ・ニンに戻って調停に努めた。しかしながら、2ヶ月近くが経過して、按配する事を協議したが、タイ・ニン聖座に戻って教えを行うことはならなかった。

7. アン・ホイ静室を聖会事務局 (Văn Phòng Hội Thánh) として選んだ

1935年4月14日(乙亥年3月9日)トゥオン・トゥオン・タイン頭師は、ベン・チェから「諸職色、職事、そして男女の道友」へ送る珠知があった。珠知には以下のような行があった。

「2月16日(正月14日)から今日まで、2ヶ月近くが経ち、万霊会の命を受けた尚掌法もタイ・ニンとの和合を調停し続けることに心を配り尽したが、結果は未だに形も見られずその様子も認められなかった。そこで掌法と私は、これからベン・チェ静室にあって、そこに事務局 (Văn Phòng) を設けて、教えに心を配る事に決した。大慈父 (Đài Từ Phụ) を諭す命があれば、そのとき初めてタイ・ニン聖座に帰ることとしたい。」(『整道珠知』39頁)

8. 教宗の登典礼 (Lễ Đăng Điện) (1935年5月)

1935年4月4日に下された手紙⁽²⁶⁾に従って礼生以上の各職色は1935年5月8日、アン・ホイ静室に戻って1935年5月8日～10日(乙亥年4月6日～8日)までの3日間の聖会に集まった。

「集まった面々には、尚掌法レエ・バア・チャン、頭師トゥオン・トゥオン・タイン、男性派 (Phái nam) には5位の教師、20位の教友、170位の礼生がおり、その数の中には144位の新たに公の選挙で選ばれた者がいた。女性派 (Phái nữ) には1位の教師、3位の教友と108位の礼生がおり、その数の中には100位の新たに公の選挙で選ばれた者がいた。」(『整道珠知』44頁)

各静室における内律 (Nội Luật) を創ることについて討議した後、九院に加わる職色を選び、尚頭師は、尚掌法にことばを譲った。記録によると、この段は次のごとくであった。

「尚掌法；二月(正月)の日の万霊会で決まった計画の中では、投票が済んだ後、教えの根源を把握するよう選ばれた方に直ちに登典礼 (lễ Đăng Điện) を行うこととなっている。そこで私はいま、(ベン・チェの) アン・ホイ静室で登典礼を行わねばならないと定められている。教えの根源を把握する人が、神聖な力の助けを十分に得て責務を十分に果たすことができる。聖会はどのように考慮なさるのか？聖会は後に各問題を討論してきた。例えば、

- ・登典は、どの品位に対して行われるのか？
- ・ここは単なる静室に過ぎないが、登典はできるのか？等である。

最後に、会議は同じく意見を統一した。すなわちトゥオン・トゥオン・タイン師が、アン・ホイ静室に在って教宗の品を授けられ典礼に記載されるであろう。上述した登典礼は1935年5月9日(乙亥年4月7日)正午に入って組織された。

整道に着手した1934-1935年の時間の中でトゥオン・トゥオン・タインとレエ・バア・チャンの二位は(ベン・チェの)アン・ホイ静室に在って、あるいはロン・ハイ (Long Hải) のバツ

ク・ヴァン・デイエン (Bạch Vân Điện, 白雲殿) に在って、更に別の地に在って2～3回完全に機⁽²⁷⁾を手にする前に上恩 (On Trên) の命に仕える壇機 (đàn cơ) を2～3回立てた。⁽²⁸⁾

1935年5月7日(乙亥年4月5日)、壇に仕える若干の職色とともに尚掌法レエ・ヴァン・チャンと尚頭師トゥオン・トゥオン・タインの二位の壇を証明することと同時に諸位はアン・ホイ静室で壇を立てた。チャウ (Châu) とティン (Tinh) の二位が機 (cơ) を手伝った。⁽²⁹⁾ 李太白大仙 (Lý Thái Bạch Đại Tiên) が下って、登典礼の儀式を次のごとくに教えた。

「李太白仙長 (Tiên Trưởng) .

老人は新・旧の天封 (Thiên phong) の職色と二賢友にご挨拶を申し上げます。貧しい教え (Bản Đạo) は諸賢友に吉恩を下しました。賢友トゥオン・チャン・タイン (Thượng Trang Thanh) は、ここに諭した貧しい教えの言葉を記憶しなさい。

すなわち、登典 (Đăng Điện) : 1935年5月9日(乙亥年4月7日) 11時9分丁度にここへ着き、トゥオン・トゥオン・タイン賢友を百花の香りが立ち込める中で沐浴させ、それから九天開花 (Cửu Thiên Khai Hóa) の9字を背中の後に鎮め、(多くは環である) 最も特別の場所には「十二霊神 (Thập nhị linh thần)」と題し、両の掌には「神六丁六甲 (Thần lục đĩnh lục giáp)」を鎮め、足には「照霊仙 (Chiếu Linh Tiên)」の護符をはる。

9日(7日)の日の昼12時に賢友は、教宗の天服 (Thiên phục) に身を包み八卦台 (Bát Quái Đài) の神鎮 (trần Thần) の金光神鎮 (trần Thần Kim Quang) に入り、十二時神王 (Thập nhị Thời Thần Vương) の兆しの座位の場所のある九霊殿 (Cửu Linh Điện) に上る。

四鎮は降魔処 (Giáng Ma Xứ) の護符を四方に向けて貼る。その後で、貧しい教えを二つの身体⁽³⁰⁾に分けるために、直ちに典礼に記載する。

トゥオン・トゥオン・タインは座位に上り、貧しい教えがトゥオン・トゥオン・タインに降した教えの律 (Luật) に関する聖なる教え (Thánh

Giáo) を賢友トゥオン・チャン・タインが読み、読み終わったらそれを渡す。伝えられた教え (Đạo truyền) と二つの聖なる教え (Thánh Giáo) (この聖なる教えは天使 (Thiên sử) になるようにすることができる) を読み終えたとき、護法 (Hộ Pháp) は立って机の外に出て、呆然とする教宗に、記された内容に注目して、以下のように命を伝える。

保封君 (Bảo Phong Quân)、開世性と保徳真君 (Khai Thế Tính và Bảo Đức Chơn Quân)⁽³¹⁾に勅令し、各々に律と法をたくさん贈る。六つの掌が教宗に掲げられ、掲げられたら椅子の上に置かれ、賢友が面前まで直進して教宗の玉座に近づいてこの言葉を言い伝える。

「これは十分従わなければならない賢友の天律 (Thiên Luật Hiền hữu) である。」

この段が済んだら教宗は立ち上がり、自らの名号を新たに声を上げて呼称し始める。人類を愛する心を打ち明けたら、すなわち両手を空中に高く挙げ、一瞬の間諸道友を十分に視る。12時の鐘を打った後、教宗は八卦台に入り聖水 (phép nước) をなし、その後ティエン・リイ・マツト・チュエン (Thiên Lý Mật Truyền 李季密伝) の家に戻る仕度をする。それで、務めは終わる。」

1935年5月9日の登典礼の後の午後、バン・チン・ダオ聖会は16時30分に再び集まった。尚掌法師が開会を宣した後、

「新教宗は立ち上がって次のように言われた。私は両派の諸職色に謹んでご挨拶申し上げます。私は教えが現在神聖なる支援のおかげで、それぞれの人の信仰を取り戻し、その信仰を堅固なものにすることができることを大変喜ばしく思っております。(中略)

本日、積極的に論ずる神聖な動機の多くの朋友を得たために、熱心な聖会と万霊会の信任を得たために、特に満ち溢れる道友の愛する心情のために、私は新たにこの極めて重い責任を担うことに同意し、困難な苦勞する時期の間、道友を背中に担ぎ手を取って仕え、いつの日か教え

を助ける抜群の才能と道徳と賢哲を備えた人物が世に出るのを待ち、私はそのような人に未来を譲り、安らかで清浄な山に入りたいと思います。

登典の時、私は宝殿 (Bảo Điện) の中心で、心を尽くして一人の長兄の責務を十分に為すことを願い、正しい教え (Chánh giáo) の途の上に人生 (nhon sanh) を真っ直ぐ導くよう布告した。しかし、責務をやり終わることができるようにしたいなら、心を尽くす職色や職事のおかげで新たに支援することにお互いに積極的に関心を持たねばなりません。

それで両派のすべての諸賢友は皆私を信頼する心を打ち明け、これからは今日までの腐った徳を出で、大慈父 (Đại Từ Phụ) の熱誠の寸心を尽くし、また私たちと教えを整備することに関心を持ち、のんびりした人生に仕え、師の意志にかなうようにし、天意 (Thiên ý) に従い、師の下さる法を得る日を迎えるために、凡人の域をはるかに超えて聖に入る (nhập Thánh) ほうがよいと論しました。」(『整道珠知』47頁)

その日聖会は又、同じく職色の昇任を封じる決定をし、教宗グウエン・ゴック・トゥオン師に完全な権限を手渡した。

教宗の登典礼の2日後、1935年5月11日尚掌法レエ・バァ・チャンは、登典礼が大変美しく演出できたことに関して全バン・チン・ダオに布告を出した。その後について、布告は次のように要求した。

「私は以下の通り記された『祝賀経 (kinh chúc mừng)』を持っており、両派の職色、職事は、この経を熱心に喜んで読み、教えの根源を把握する人にその位を安んじ、早くに教えを復興していただくことを祈願し、正しい教えの途の上を見守って連れて行く集団に仕えなさい。すぐにこの後の3週それぞれが礼拝をした後、三宝 (Tam Bửu) を捧げて読経し、この経を続いて読みなさい。」

この『祝賀経』は李太白仙長が1935年4月17日 (乙亥年3月15日) 子の刻にいたって壇に下し

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐって

たものであり、この経には16句含んでいて、ここに頭の4句を引用する。

「初めに恩上慈父 (Ơn Trên Từ Phụ) を伏し拝み、福善委員会は全ての衆生を養います。

広く呈示された教えの緒は誠であり、今日一人の落成したものがおよそ民の・・・」⁽³²⁾

ここまでの各事項を総括すると、整道が聖会を立て、(ベン・チュエの) アン・ホイ静室に本部を置き、特に職色を(掌法・教宗と多くの職色を公に選挙した)公選体系とし、整道は内律を編纂し、特に九院を設けた。ここに1935年5月までに、カオダイ教の一つの新しい聖会が出現したと知れる。それが、バン・チン・ダオ聖会である。

おわりに

グウエン・ゴック・トゥオンは、協天台によるコ・ブット(機仏)を禁じることで、各地各時期の神意の拡散や矛盾を防ぎ、教義の純粋性を保ち、指導力の確立に努めた。タイ・ニン聖座のファム・コン・タック(Phạm Công Tắc)が協天台の護法の地位に居り、扶鸞を用いた壇機による説法をほしいままにしたのとは対照的である。教を整えることから始まった「整道」は、タイ・ニン聖座の「統制」を脱して分派独立しつつ、カオ・ダイの教を守ろうとしたものと思われる。

なお、このバン・チン・ダオ聖会は中部・北部にも早くから布教組織を置き、解放後のハノイ政権にもカオダイ教としての窓口を持っていたためか、解放後のカオダイ教の機筆は迷信として禁じられたが、その背景にはバン・チン・ダオの実践があったので、禁止してもカオダイ教徒を懐柔できるとのヴェトナム政府宗教委員会の判断があったものとも思われる。

職色と信徒のあらゆる面での生活が改善され、内部からの同意により、聖会に内なる力が満ちてくるときはどのような時でも、真正な道にしたがって教えを整頓するという目標は、堅実に実現していくであろう。ただ、この整道が、

整道で留まらずに新たな聖会の設立につながったことは、教宗レエ・ヴァン・チュンの死と重なっており、レエ・ヴァン・チュンが帰天した後のタイ・ニン聖座内部での混乱を窺わせるが、その点については向後の課題としたい。

最後に、本稿を記すに当たって貴重な資料を頂戴したバン・チン・ダオ聖会代表玉正配師(Ngọc Chánh Phối Sư) ヴォ・ヴァン・ニョオ(Võ Văn Nho) 師や『カオダイ雑誌(Tạp Chí CAO ĐÀI)』編集長でもある保文法君(Bảo Văn Pháp Quân) ルウ・ヴァン・チャウ(Lữ Văn Châu) 師に感謝申し上げます。

<注>

- (1) 高津 茂「解放後のカオダイ教」東洋大学アジア文化研究所『研究年報』第39号、2005年2月、pp.32-50
- (2) Huỳnh Ngọc Thu: “Tìm Hiểu Đạo Cao Đài ở Nam Bộ”, Đại Học Quốc Gia Thành Phố Hồ Chí Minh, Trường Đại Học Khoa Học Xã Hội & Nhân Văn, ‘Tạp San Khoa Học Xã Hội & Nhân Văn’, Số 48, Tháng 3, 2010, p.63
- (3) グウエン・ゴック・トゥオンについては、Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ; ‘TIÊU SỬ ĐỨC GIÁO TÔNG NGUYỄN NGỌC TƯƠNG (1881-1951)’ In Lại Theo Ấn Bản Năm 1958, Hội-Thánh An-Hội Bến-Treや“Phóng đề lược sử Đức Giáo Tông Nguyễn Ngọc Tương”, ‘Tạp chí CAO ĐÀI’, Số 4, 2010-7, p.65-71やTrần Hương; ‘Đêm Trắng Của Đức Giáo Tông’, Tiểu Thuyết, Nhà Xuất Bản Công An Nhân Dân, 2002などを参照
- (4) Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ, Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo: ‘Lịch Sử Đạo Cao Đài Quyển II TRUYỀN ĐẠO Từ Khai Minh Đến Chia Chi Phái (1926-1938)’, Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, In lần thứ nhứt, 2008,
- (5) Trung Tâm Khoa Học Xã Hội và Nhân Văn Quốc Gia, Viện Nghiên Cứu Tôn Giáo, ‘BƯỚC ĐẦU TÌM HIỂU ĐẠO CAO ĐÀI’, Nhà Xuất Bản Khoa Học Xã Hội, Hà Nội, 1995, pp.136-139

グアエン・ゴック・トウオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

- (6) 高津 茂「二つの抗戦期に見るカオダイ教タイ・ニン聖座派と愛国諸派の民族的共生への動きの対比」『共生科学』第2号、2011、pp.109-122
- (7) Trung Tâm Khoa Học Xã Hội và Nhân Văn Quốc Gia, Viện Nghiên Cứu Tôn Giáo, (1995)、p.134
- (8) 大道三期普度聖座 (Tòa Thánh ĐẠI ĐẠO TAM KỶ PHỔ ĐỘ) は丁卯 (1927) 5月12日にタイニン省ロン・タイン村 (làng Long Thành tỉnh Tây Ninh) で成立した。(Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ ‘TIỂU-SỨ ĐỨC GIÁO TÔNG NGUYỄN-NGỌC-TƯƠNG (1881-1951)’, In Lại Theo Ấn Bản Năm 1958, Hội-Thánh An-Hội Bến-Tre, 1958、p.20)
- (9) Nguyễn Thanh Xuân : ‘Một Số Tôn Giáo ở Việt Nam’, Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2007, pp.355-357 なお、同書には同派のその後について、「サイゴン軍中將ダン・ヴァン・クワン (Đặng Văn Quang) の援助によりカオダイ組織の一つである西部カオダイ連合 (Cao Đài Liên Hiệp Miền Tây) が設立され、1966年のサイゴン軍の侵攻後カオダイ・バン・チン・ダオは、いわゆる聖教防衛委員会 (Ban Bảo Vệ Thánh Giáo) の下に身を隠す時代遅れの消極的な人々と進歩的職色勢力との間の内部矛盾を呈する状態に入っていた。結局進歩的職色たちは、憲世 (Hiển Thế) チャン・チ・タイン (Trần Chí Thành) によりベン・チュエ祖亭 (Tổ Đình Bến Tre) から遠ざかり、(サイゴンの) ドォ・タイン聖室 (Thánh Thất Đô Thành) に上り、最後はいわゆるカオダイ・バン・チン・ベン・チュエ (Cao Đài Ban Chinh Bến Tre) とカオダイ・バン・チン・ドォ・タイン (Cao Đài Ban Chinh Đô Thành) と知られた二つの集団を形成するに至った。

1994年カオダイ・バン・チン・ダオは運動委員会 (Ban Vận Động) を成立させて二つの集団の間を元通りにするための準備をした。3年間の運動の後1997年7月ベン・チュエ祖亭聖座 (Tòa Thánh Tổ Đình Bến Tre) においてカオダイ・バン・チン・ダオ人生会 (Hội Nhơn Sanh Cao Đài Ban Chinh Đạo) が組織され、憲章 (Hiển Chương) を通過させ聖会を指導する機関を選んで、バン・

チン・ベン・チュエとバン・チン・ドォ・タインの二つの集団を合一一致させた。その後カオダイ・バン・チン・ダオは、政府宗教委員会の1997年8月8日 QD/TGCP26号決定に沿い、組織面では法人資格を国家より公認された。

カオダイ・バン・チンの根本教理、律令、儀礼、教えを行う方法については、カオダイ・タイニンや他のカオダイ各派と同じであった。新たに創設された時、カオダイ・バン・チン・ダオは、カオダイ教の信徒、職色、礼拝所の総数の2/3を占めるかなり大きな勢力であった。しかし、後にカオダイ・タイニンが勢力を回復し、別の面で1960年代に入ってカオダイ・バン・チン・ダオは内部矛盾にいたったために、信徒の発展が制限された。現在、カオダイ・バン・チン・ダオは788592名の信徒、2977名の職色、249の聖室、24省と南部の主要な都市に仏母 (Phật Mẫu) を祀る8殿がある。」との記述がある。このことから、同派が一時期分裂していたことが知れる。ちなみに、同書のカオダイ・タイニン派の記述には、「1509444名の信徒、2176名の職色、352の聖室、34省と都市に仏母を祀る167の殿がある」とある。

Phạm Bích Hợp : ‘NGƯỜI NAM BỘ và TÔN GIÁO BẢN ĐỊA’, Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2007, pp.284-286のベン・チュエ聖会 (Hội Thánh Bến Tre (Ban Chinh Đạo)) には、「戦争の時期にあって、バン・チンの職色と信徒は、抗戦に積極的に参加し、聖会全体では英雄的ヴェトナムの母は76名居り、233名の職色と1168名の信徒と486の家庭が革命のためにカンパをした。現在、バン・チン・ダオは、2921名の職色、788,592名の信徒、249の基礎的な礼拝のための寺があり、そのうちの172の基礎的な礼拝のための寺には修理されたものや新たに建てられたものがある。発展により宗教生活に、20,000名の信徒と、品級に封じたり職に封じた者が700位と、304の組織が加わった。」とあり、1997年の合一以降に、急速に信徒数を拡大されたことが伺われる。なお、2010年版の『カオダイ問答』(Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo、: ‘CAO ĐÀI VẤN ĐÁP’,

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

p.36) には、「バン・チン・ダオ聖会には、現在25省域に251静室 (Thánh Thất) があり、ベン・チェ省には最多の61静室がある。」とある。

- (10) Phạm Bích Hợp: pp.284-286
- (11) カオダイ・バン・チン・ダオが成立した当時には、18省中85の教えの家があった。現在24省・都市に249の教えの家がある。中央聖会はベン・チェ市内に置かれている。1985年のベン・チェ省祖国戦線の資料によると、カオダイ・バン・チン・ダオ・ベン・チェには59の静室がありおよそ20000人の信徒がいる。Thạch Phương – Đoàn Tứ Chủ biên; ‘ĐỊA CHỈ BẾN TRE’ (Tái bản lần thứ có sửa chữa và bổ sung), Nhà Xuất Bản Khoa Học Xã Hội, Hà Nội, 2001, p.943
- (12) 機とは、扶鸞を行う際に使う機筆 (cơ bút) のこと。
- (13) Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ, Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo: ‘Lịch Sử Đạo Cao Đài Quyển II TRUYỀN ĐẠO p.439
- (14) バック・ヴァン・ディエンの住所は現在の、xã Phước Hải, Huyện Đất Đỏ, Bà Rịa-Vũng Tàu である。
- (15) TRUYỀN ĐẠO, p.440によると、ビン・ホア静室は、フイン・ヴァン・リエウ (Huỳnh Văn Liêu) によって献上された1920m²の土地に、1930年に建てられ、最初は土壁と葉っぱの屋根のみであった。1933年にトゥオン・トゥオン・タイン師の支援で堅固に建替えられた。1934年の時点では、静室は、礼生 (Lễ Sinh) タイ・ダン・タイン (Thái Đăng Thanh) (俗名グウエン・ヴァン・ダン (Nguyễn Văn Đăng)) が教えの家の頭首となっていた。現在の住所は、174/30A Chu Văn An, P12, quận Bình Thạnh, TP. HCM. である。
- (16) TRUYỀN ĐẠO, p.440によると、アン・ホイ静室 (ベン・チェ) は、フウオン・グウエット大姉 (Đại Tỷ Hương Nguyệt) (バン・チン・ダオ聖会権女導師 (Quyển Nữ Đầu Sư)) が明らかにするところでは、ベン・チェ省都はその昔アン・ホイ村 (làng An Hội) に属しており、当初静室はここに位置し、(どの支派にも未だ属してはいなかった) 県の名誉職のグウエン・ズウ・ホアイ (Nguyễn Dư Hoài) (1868-1930) の家に置かれていた (この地は、ベン・チェ町の P.1, グウエン・ディン・チュウ (Nguyễn Đình Chiêu) 通りとグウエン・フエ (Nguyễn Huệ) 通りの角で、プロテスタント教会 (nhà thờ Tin Lành) に対面していた)。グウエン・ズウ・ホアイは1930年に教えに寄進したことによって、トゥオン・トゥオン・タイン師はその土地に小さな静室を建てた (柱は椰子の老木で、瓦で葺いて、古ぼけた煉瓦を敷き詰めてあった)。1935年、アン・ホイ静室の建設が決定された時、(祭壇などの) 各装いは、ベン・チェ P.6. チュオン・ディン (Trương Đình) 通り189番のヴォ・ヴァン・リイ (Võ Văn Lý) 氏 (1878-1953) の私家 (ここは女性の忠刺修行所 (nhà tu Trung Thừa Nữ) に対面した高床の家であった) に一時的に移動されたのではないかと思う。建設から2年後、アン・ホイ静室は丁丑年 (1937) 4月に落成式を設けた。
- (17) TRUYỀN ĐẠO, p.441によると、整道珠知権 (Quyển Châu Tri Chinh Đạo) は珠知第3号以降から印刷して示している。それゆえ、バン・チン・ダオ聖会の当初の幾つかの資料を確実にとどめている珠知第1・第2号の2つの珠知は現在未だに見つけ出されていない。バン・チン・ダオ上長各位に依れば、上述した2つの珠知にはまだ「整道」には言及していなかったもので、当初のバン・チン・ダオ聖会は略したとのことである。
- (18) この後半部分の各細目は、タム・タイン (Tâm Thành) 『三ヶ月産行道 (Tam cá nguyệt san Hành Đạo)』第9号 (số 9), 1964年 (甲辰年) 2月、35-38頁に拠る。
- (19) 『行道集産 (Tập san Hành Đạo)』第9号 (số 9)、1964年 (甲辰年) 2月、27頁、「整道大会 (cuộc Đại Hội Chinh Đạo)」より引用。
- (20) カオダイ教の職階については、『法正伝注解』に明記されている。高津 茂 (1986) 『『法正伝注解』 訳考 [1] —カオダイ教聖典の考察—』、東洋大学アジア・アフリカ文化研究所『研究年報』第21号、1987年3月発行、高津 茂 (1988) 『『法正伝注解』 訳考 [2] —カオダイ教聖典の考察

グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐる

- 一、東洋大学アジア・アフリカ文化研究所『研究年報』第23号、1989年3月発行、参照
- (21) 掌法の権能については、高津 茂 (1986) を参照
- (22) 九院 (Cửu Viện) については、Trung Tâm Khoa Học Xã Hội và Nhân Văn Quốc Gia, Viện Nghiên Cứu Tôn Giáo, (1995), p.200 また、バン・チン・ダオ聖会の九院の内容はタイ・ニン聖座のそれとは一部異なっていることは、p.221参照
- (23) バン・チン・ダオ聖会『グウエン・ゴック・トゥオン教宗 (Giáo Tông Nguyễn Ngọc Tương) 小史』, 1958, p.43
- (24) この女性派代表の場合には問題があった。フォン・タム教師は、1935年2月5日タイニン聖座に降った詩 (お告げ) があり、整道委員会には参加しないことが確定されていた。
- (25) ベン・チェ・アン・ホイ 静室、『整道珠知1934-1936』, 1936年4月12日、20頁参照
- (26) 扶鸞によって下された神意を表す手紙のこと。
- (27) 注10を参照
- (28) 扶鸞を行うことを、カオダイ教では壇機 (đàn cơ) を立てるともいう。
- (29) 大姉フウオン・グウエット (Đại Tỷ Hương Nguyệt) とレエ・ヴァン・サウ (Lê Văn Sáu) の知るところによれば、ティン (Tinh) は、教師の品にあった義の盛んなレエ・タム・ティン (Lê Tam Tinh (1893-1966)) のことであり、チャウ (Châu) は、多分保徳真君 (Bảo Đức Chơn Quân) グウエン・ヴァン・チョオ (Nguyễn Văn Cho) のことと思われる。TRUYỀN ĐẠO, p.459
- (30) 「二つの身体」とは、九重台と八卦台のこと。
- (31) 保封君とはホオ・ティエン・クウエン (Hồ Thiện Quyên), 開世とはレエ・タイン・ティン (Lê Thành Tinh), 保徳真君とはグウエン・ヴァン・チョオ (Nguyễn Văn Cho) のことである。TRUYỀN ĐẠO, p.462
- (32) 『整道珠知』1936、50頁、TRUYỀN ĐẠO, p.464



左から二人目が現在のバン・チン・ダオ聖会代表玉正配師 (Ngọc Chánh Phối Sư) ヴォ・ヴァン・ニョオ (Võ Văn Nho) 師 2010年8月30日ベン・チェの同聖会本部にて。

(客員研究員・星槎大学共生科学部)

グアエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐって

表 1 ヴェトナム省別宗教人口分布

	省名、城市	省別人口	仏教徒	カソリック	プロテスタント	カオダイ教	ホアハオ教	イスラム教
TÂY BẮC 西北地区			2,523,600					
1	ライ・チャウ Lai Châu	305,600	7,500	376				
2	ディエン・ビエン Điện Biên	442,800						
3	ソン・ラ Sơn La	974,500	465	506				
4	ホア・ビン Hòa Bình	800,700	4,704	14,950				
Đông Bắc 東北地区			9,258,000					
5	ハ・ザン Hà Giang	659,300	1,000	703				
6	カオ・バン Cao Bằng	509,900	213	962				
7	ラオ・カイ Lào Cai	563,000	3,578	5,314				
8	イエ・ン・バイ Yên Bái	725,300	5,000	42,109				
9	トゥエン・クワン Tuyên Quang	719,700	5,421	17,884				
10	バック・カン Bắc Kạn	295,400	425	293				
11	タイ・グアエン Thái Nguyên	1,098,400	16,263	23,000				
12	ラン・ソン Lạng Sơn	731,900	910		1,305			
13	フウ・トホ Phú Thọ	1,314,900	35,177	120,000				
14	バック・ザン Bắc Giang	1,564,000	35,809	21,576				
15	クワン・ニン Quảng Ninh	1,076,200	70,000	40,209		120		
ĐB Sông Hồng 紅河デルタ								
16	ハ・ノイ Hà Nội	3,087,800	64,000	34,447	592	300		18
17	ヴィン・フック Vinh Phúc	1,154,400	31,736	19,196	50			
18	バック・ニン Bắc Ninh	989,200	40,000	14,000				
19	ハ・タイ Hà Tây	2,509,200	150,000	120,000	694	408		
20	フン・イエ・ン Hưng Yên	1,120,300	76,930	18,150				
21	ハイ・ズオン Hải Dương	1,689,200	80,000	33,263	1,100			
22	ハイ・フアオン Hải Phòng	1,776,400	58,376	39,522	1,000	189		
23	ハ・ナム Hà Nam	819,700	109,516	97,663	135			
24	タイ・ビン Thái Bình	1,842,600	100,000	94,809	210			
25	ナム・ディン Nam Định	1,950,300	125,973	385,404	680			
26	ニン・ビン Ninh Bình	908,700	37,343	136,200				
Bắc Trung Bộ 北中部								
27	タイン・ホア Thanh Hóa	3,660,900	20,000	139,170	186	100		
28	ゲ・アン Nghệ An	3,016,300	5,000	225,577		50		
29	ハ・ティン Hà Tĩnh	1,301,500	2,000	124,796				
30	クワン・ビン Quảng Bình	834,200	1,235	77,940				
31	クワン・チ Quảng Trị	615,600	55,236	6,820	2,999			
32	トゥア・テイエン - フェ Thừa Thiên - Huế	1,119,400	269,351	47,359	378	238		
DH Nam Trung Bộ 南中部沿岸部								
33	ダ・ナン Đà Nẵng	754,500	200,000	28,532	8,515	14,072		
34	クワン・ナム Quảng Nam	1,453,800	500,000	23,918	13,130	10,878		
35	クワン・ガイ Quảng Ngãi	1,259,600	69,682	5,446	3,988	4,747		
36	ビン・ディン Bình Định	1,543,300	107,375	31,877	1,386	18,635	120	
37	フウ・イエ・ン Phú Yên	849,000	105,000	17,000	1,700	3,137	160	
38	カイン・ホア Khánh Hòa	1,113,500	200,000	90,000	8,810	6,243	150	
39	ニン・トゥアン Ninh Thuận	555,600	85,000	62,482	4,716	1,699	80	24,536
40	ビン・トゥアン Bình Thuận	1,140,700	160,000	132,500	6,892	3,942		16,428
Vùng Tây Nguyên タイ・グアエン地区								
41	コン・トゥム Kon Tum	365,300	24,601	80,689	231	639		
42	ザ・ライ Gia Lai	1,095,000	666,873	65,058	66,080	3,096		
43	ダック・ラック Đắk Lắk	1,689,700	131,550	185,000	119,850	3,949		
44	ダック・ノン Đắk Nông	368,300						
45	ラム・ドン Lâm Đồng	1,138,700	180,052	200,402	56,713	13,528		
Vùng Đông Nam Bộ 東南部地区								
46	タイ・ニン Tây Ninh	1,028,500	102,304	25,671	300	358,658	15	2,845
47	ビン・ズオン Bình Dương	873,000	35,012	48,264	800	2,498		330
48	ビン・フック Bình Phước	776,700	92,369	37,900	39,032			310
49	タイン・フォ・ホ・チ・ミン TP. Hồ Chí Minh	5,708,100	1,100,000	526,308	22,570		500	5,480
50	ドン・ナイ Đồng Nai	2,167,100	380,571	660,000	12,234	11,117	288	1,769
51	バ・ズイア - ヴン・タウ Bà Rịa - Vũng Tàu	898,000	179,496	181,000	4,000	6,881		
ĐB Sông Cửu Long メコン・デルタ								
52	ロン・アン Long An	1,407,100	103,528	30,861	3,698	98,000	204	99
53	ドン・タップ Đồng Tháp	1,643,700	339,270	35,150	5,283	43,328	159,795	
54	ティエン・ザン Tiền Giang	1,684,300	162,450	36,000	7,285		375	
55	ベン・チェ Bến tre	1,345,600	414	175,000	5,000	4,500	1,334	
56	ヴィン・ロン Vĩnh Long	1,047,200	172,000	38,145	3,491	19,585	27,436	
57	チャ・ヴィン Trà Vinh	1,015,800	418,034	50,000	565	30,000		185
58	アン・ザン An Giang	2,174,700	860,531	60,225		44,562	861,551	12,696
59	カン・トゥ Cần Thơ	1,127,100	207,345	114,029	6,291	24,469	194,099	
60	ハウ・ザン Hậu Giang	776,300						
61	ソク・チャン Sóc Trăng	1,259,800	387,712	54,966	1,621	10,000	466	
62	バック・リユウ Bạc Liêu	786,400	77,793	15,364	961	7,813	17	
63	キエン・ザン Kiên Giang	1,632,800	377,863	90,990	3,908	14,419	3,047	301
64	カ・マウ Cà Mau	1,198,100	188,065	21,126	1,646	42,730	226	
	小 計	82,069,800	9,038,064	5,028,480	421,248	930,730	1,232,572	64,997

出典：Nguyễn Thanh Xuân：‘Một Số Tôn Giáo ở Việt Nam’ Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2007, Phụ Lục

グエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とカオダイ・バン・チン・ダオ (Ban Chinh Đạo Cao Đài) の成立をめぐって

表2 ヴェトナム南部におけるカオダイ教の求道申請書を有する信徒数と礼拝施設数

	省・都市名	職 色	職 事	道 友	礼拝施設	
	Tên Tỉnh, Thành phố	Chức sắc	Chức việc	Đạo Hữu	Cơ sở thờ tự	
1	アン・ザン	An Giang	163	681	73,829	45
2	バ・リアーブン・タウ	Bà Rịa - Vũng Tàu	191	345	9,147	19
3	バック・リュウ	Bạc Liêu	30	342	7,813	25
4	ベン・チェ	Bến Tre	1,076	1,535	45,000	134
5	ビン・ディン	Bình Dương	131	85	3,739	18
6	ビン・フック	Bình Phước	6	42	1,911	5
7	カ・マウ	Cà Mau	479	816	42,730	59
8	カン・トオ	Cần Thơ	152	347	17,407	28
9	ドン・ナイ	Đồng Nai	28	459	11,117	28
10	ドン・タップ	Đồng Tháp	493	1,259	55,273	54
11	ホー・チ・ミン	Hồ Chí Minh	567	1,476	47,427	88
12	キエン・ザン	Kiên Giang	285	327	14,410	49
13	ロン・アン	Long An	739	200	98,000	119
14	タイ・ニン	Tây Ninh	2,976	6,140	390,416	110
15	チエン・ザン	Tiền Giang	1,514	1,332	41,176	93
16	ハウ・ザン	Hậu Giang	26	90	11,636	19
17	ソク・チャン	Sóc Trăng	194	274	10,096	29
18	チャ・ヴィン	Trà Vinh	337	569	27,119	44
19	ヴィン・ロン	Vĩnh Long	511	861	22,872	49
	小 計		9,898	17,180	931,118	1,015

出典：政府主教委員会 2004年12月 (Ban Tôn Giáo Chính phủ tháng 12/2004)

表3 カオダイ教 (政府宗教委員会の2004年データにより補充した2002年統計データ)

一般的信徒数	Tín đồ nói chung	2,434,432
内、求道申請書を有する者 (正式信徒)	người có số cầu đạo	930,730
職色	Chức sắc	9,237
内、九重台	Cửu Trùng Đài	7,534
協天台	Hiệp Thiên Đài	1,793
職事	Chức Việc	25,892
内、男性職事	Chức việc nam	13,948
女性職事	Chức việc nữ	11,944
礼拝施設	Cơ sở thờ tự	1,205

出典：Nguyễn Thanh Xuân : 'Một Số Tôn Giáo ở Việt Nam' Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2007, Phụ Lục